

令和4年度学校評価シート(後期)

R5.3.13

学校目標:いのちと人権を大切にし、ふるさとを愛し　こころ豊かで夢に挑戦する　自立した生徒の育成

評価計画						自己評価						新改善計画	学校関係者評価	
観点	項目	具体的方策	評価指標	目標値 (昨年度)	前期評価	達成値 (今年度)	評価アンケート			昨年 評価	評価		コメント	
確かな学力の定着	目標を持った学校生活	夢や目標の意識化	目標を持って取り組んだ生徒の指数昨年度以上	2.4	2.3	2.1	2.7	2.1	2.2	A	B	①コロナ感染症予防の観点を踏まえての、授業スタイルの構築と学力保障。②「加美中学学習スタイル」の意思統一と徹底。③実効的な小中連携体制の構築と実践。④家庭学習強化週間の実施と、「家庭学習の手引き」の有効活用ならびに学習相談日の実施。⑤計画的な研究授業の実施と保護者への周知。⑥授業時数の確保と反復練習による基礎学力の定着。⑦学力向上プランの作成実行。	○本年度より、コロナ以前の中学校生活を全く経験していない年代となるが、その影響は各所に現れているように感じられる。特に、「目標を持った学校生活」の数値が低下しているところが危惧される。幸い、コロナ感染症による制限も今後徐々に緩和される見通しであり、対面の授業も活発化するだろう。学校生活が生徒達にとってより意義深いものとなるよう、これまで同様、先生方の取組に期待している。 ○学校が目指す『楽しく分かりやすい授業』像を、保護者と共有し連携しながら進めていけるよう、活発な情報発信をお願いしたい。 ○読書量も含め、家庭生活についても、昨年と比べ数値的に微減傾向となっている。ICT端末の活用やタブレットドリルの導入など、ハード面での充実は進みつつあるようだが、生徒の「学びに向かう力」をより向上させていけるよう、学校としての取組を強化してほしい。	
	読書の推奨	読書記録による表彰	年間読書量12冊以上の生徒数昨年度以上	31		29				A	B			
	家庭学習の習慣化	「家庭学習の手引き」活用と啓発	家庭学習をしている生徒の指数の昨年度以上	2.1	2.1	2.0	2.2	2.0	2.0	B	B			
	楽しく分かりやすい授業	計画的な授業公開による授業改善	授業が楽しく分かりやすいと感じる生徒の指数昨年度以上	2.2	2.1	2.1	2.6	2.1	1.9	A	B			
	学力の向上	学力向上プランを活かした授業改善	調査結果を生かした授業改善を評価する教員の指数一昨年度以上	2.3	2.2	2.5	2.5			A	A			
豊かなこころ	道徳教育の充実	年1度の授業公開と学年団の授業	道徳指導の工夫改善をした教員の指数昨年度以上	2.5	2.2	2.6	2.6	2.4	2.0	A	A	①道徳の時間数確保と学年団による道徳の指導。道徳授業の公開と研究授業の実施。②PDCA(*2)による学校行事の工夫改善と、コロナ禍での新たな生活様式に対応した形態の構築。③キャリア教育(*5)の年間計画や人権教育の全体計画の実行。④コロナ下でのボランティア活動の再構築。⑤生徒会による各種キャンペーンの実施ならびに表彰。⑥掃除分担区の見直しと黙々掃除の実施及び清掃指導場所の明確化。⑦手伝いの奨励や個々の生活スケジュール計画など、家庭での生活状況の啓発。⑧定期的な生活状況調査の実施。 ○「道徳教育の充実」ならびに、「規範意識の育成」や「時間を守る」等生徒の生活面に関して、コロナの影響下にもかかわらず、加美中学生のよさが受け継がれているようで評価できる。家庭においてもその『よさ』が発揮できれば、保護者の数値との乖離は小さくなると思う。今後、コロナによる制限下から脱するに従い、道徳の授業公開を積極的に進めるなど、情報発信を推進していくことが大切だろう。 ○「ボランティア活動の充実」についても、コロナの影響による行動制限が解除されるに従い、「できること」が広がるので、次年度は是非活性化を図って欲しい。『中ボラ』等に積極的に参加するようアプローチすることも可能だろう。 ○「学校行事の工夫改善」について、生徒の評価がとても高くなっている。コロナ制限下においても、「今、できること」を工夫する姿勢が生徒達に定着していることがうかがわれる。今後とも生徒主体の行事を実施いただきたい。		
	ボランティア活動の充実	ボランティア活動の場の設定と記録の保存	ボランティア活動に取り組む生徒の指数昨年度以上	1.1	1.2	1.2	2.4	1.2	1.3	C	B			
	規範意識の育成	道徳の授業を重視した学級経営	きまりを守る生徒の指数2.5以上	2.7	2.7	2.6	2.5	2.6	2.6	A	A			
	挨拶の習慣化	学校だより等による賞賛や生活三訓の掲示等による意識付け	学校家庭地域で挨拶をする生徒の指数2.5以上	2.8	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	A	A			
	時間の遵守	生活三訓の掲示等による意識付けと生徒会生活部との連携	学校で時間を守る生徒の指数2.5以上	2.6	2.6	2.5	2.6	2.5	1.8	B	B			
	美化意識の高揚	生活三訓の掲示等による意識付けと生徒会美化部との連携	清掃を一生懸命する生徒の指数昨年度以上	2.6	2.7	2.6	2.6	2.6	1.9	B	B			
	学校行事の工夫改善	行事評価による工夫改善	学校行事を工夫改善した教員の指数昨年度以上	2.4	2.1	2.1	2.1	2.8	2.5	A	B			
健やかな体	SNS運動の取組	生徒会による新ルールの周知と家庭や町教委と連携した取組	生徒のSNS運動取組の指数昨年度以上	1.9	1.9	1.8	1.9	1.8	1.9	C	C	①GIGAスクール構想にともなうネットリテラシーの継続指導と、生徒会とタイアップした自治的活動によるSNSルール遵守活動の促進。②体力向上委員会をふまえた体力向上プランの実行。③危険予測力向上をめざした多様な想定での訓練等の実行。 ○1人1台端末の扱いについては、今後とも丁寧な指導を望みたい。また、今の中学生にネットとの関わり方を深く考えさせるには、学校と家庭が連携していくことが不可欠である。家庭への情報提供のあり方を今一度工夫願いたい。 ○ケガ防止については、これからも十分な安全配慮を継続してもらいたい。 ○防災意識の面でも、最近報告された「学校への不審者侵入」等を、現実起こりうるものとして想定し、より実践的な訓練を実施願いたい。 ○通学路変更の際しても、半年がかりとなったが、今後とも地域・家庭と共同歩調でより安全な登下校となるよう、配慮をお願いしたい。 ○中学校での体力の落ち込みが問題視されている。今後も、その原因について考察を進め、効果的な取組を願いたい。		
	柔軟性向上とケガ防止の実行	学校保健委員会のケガ防止プランの実行	日本学校スポーツ振興センターにかかるケガの総件数(4月～1月)昨年度以下	30		32				A	B			
	防災安全への取組	多様な想定での訓練等の実施	生徒の災害事故への心構えの指数昨年度以上	2.4	2.3	2.4	2.5	2.4	2.3	A	A			
信頼に応える学校	学校の情報公開	便りやHP(*3)で積極的情報発信	情報公開を評価する保護者の指数2.5以上	2.3	2.4	2.5	2.6	2.4	2.5	B	A	①SC(*4)等のより一層の活用。(授業・研修・不登校生徒等の相談)②窓口を一本化し、関係機関と適切に連携。③ケース会議を定例化するなど組織対応の強化と共有化を図る。④生徒支援(不登校)委員会の定例化。⑤地域のゲストティーチャー等地域素材や人材のより一層の活用。⑥生活相談シートの活用 ○今年度も、コロナ関係や気象警報発令での臨時休業があったが、「はなまる連絡帳」等の連絡手段を今後も最大限有効活用し、すみやかな情報提供をお願いしたい。 ○ふるさと教育については、学校教育目標にも『ふるさとを愛し』とうたわれているとおり、是非地域を誇りに思う生徒を育成してもらいたい。その為にも、学校としての取組の強化をお願いしたい。 ○いじめ防止については、「あるもの」として捉えて対応している姿勢を評価したい。今後も、学校をあげて未然防止に努めるとともに、生徒の変化に敏感に反応し、そのこころに寄り添った対応をぜひお願いしたい。		
	教育活動への満足度	保護者の声に真摯に耳を傾け迅速対応	保護者の教育活動満足度の指数昨年度以上	2.3	2.4	2.3		2.3	2.3	A	A			
	特別支援教育の推進	専門性を活かした適切な教育支援	特文コーディネーター・SC等を活用した支援を評価する教員の指数昨年度以上	2.2	2.3	2.3	2.3			A	A			
	ふるさと教育推進	関係機関等と連携したふるさとの教育資源の積極活用	ふるさと教育資源活用を評価する教員の指数昨年度以上	1.8	1.7	1.8	1.8			C	C			
	不登校いじめ防止の取組	関係機関との連携による不登校対策といじめ防止基本方針の実行	不登校いじめ防止の取組を評価する教員の指数昨年度以上	2.6	2.6	2.6	2.6			B	A			
学校目標	人権尊重力	生活ノートや生活相談シートでのいじめの早期発見と対応	人権を尊重する生徒の指数昨年度以上	2.5	2.5	2.5	2.7	2.5	2.3	A	A	生活相談シートの活用と対策委員会の定例化。	○全ての項目で目標を達成できており、大変喜ばしく感じている。今後とも、「いのちと人権」を大切にしたい取組を継続してもらいたい。 ○「トライやる・ウィーク」や1年生の校外学習などのように、これまで制限がかかっていた活動にも、今後は思い切り取り組んで欲しいと思う。 ○PDCAのCAの部分が大切である。考察した点をぜひアクションに移して欲しいと考える。 ○子どもたちのこれからの人生を見据え、夢の実現に向けた指導を引き続きお願いしたい。	
	ふるさと力	関係機関との連携によるふるさと教育の場の設定	ふるさとを尊重する生徒の指数昨年度以上	2.3	2.3	2.3		2.3		A	A	関係機関と連携したふるさと教育推進。		
	ゆめ挑戦力	キャリアノートの作成活用	ゆめに挑戦する生徒の指数昨年度以上	2.4	2.3	2.4		2.4		B	A	3年間のキャリアノートの作成活用。		
	自立力	教師の支援による生徒会リーダー研修会による活性化	自立につながる行動や考えを持つ生徒の指数昨年度以上	2.3	2.3	2.3		2.3		B	A	教師の支援による生徒会リーダー研修会などによる生徒会活性化。		

※1 生活三訓とは「時を守り・場を清め・礼を正す」こと。 ※2 PDCAとはプラン(計画)ドウ(実行)チェック(評価)アクション(改善)の略 ※3 HPとはネットのホームページの略

※4 SCとはスクールカウンセラーの略称。 ※5 キャリア教育とは望ましい職業観・勤労観等を身につけ、自己の個性を理解し、主体的に進路選択する能力・態度を育てる教育

※ 目標値……………昨年度の評価指標の実績
達成値……………本年度の評価指標の実績
自己評価指数 ……3:よく当てはまる 2:当てはまる 1:あまり当てはまらない
※評価値……………A 非常によい(全項目2以上かつ目標クリア)
B よい(未達成項目があるもほぼクリアしている)
C 今後改善を検討していく(2項目未達成)

※評価アンケート実施時期は昨年度同様、
・10月の中間アンケート
・1月の後期アンケートの2回とする。
※ケガの発生については1月末現在、
※読書調査については2月末現在の数値とする。